1 国語科

(1)結果の概要と問題内容別正答率

全学年を通して、「漢字を書く」「文章を書く」項目に課題が残った。中学年は、「聞き取り」「漢字を読む」にも課題が見られた。

2年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	見たことをを発表する	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	92.1	98.2	82.7	89.8	75.2	62.4	49.1	59.4	「漢字を書く」と「文章を書く」が全国平均より下回っているが、それ以外の項目では全国平均を上回っている。無答は、27．3%であった。
全国平均	80.5	92.6	87.6	87.4	67.0	47.5	41.2	63.5	
増減	11.6	5.6	-4.9	2.4	8.2	14.9	7.9	-4.1	

3年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	作り方を説明する文章を書く	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	73.7	88.6	64.0	71.7	61.4	64.0	35.5	55.3	全体的に全国平均を下回っている。特に「漢字を書く」「説明文読解」「作り方を説明する文章を書く」の項目で10ポイント以上下回っていた。分布を見るとC層の児童が半数近くいるので、C層へのアプローチが必要になってくる。「文章を書く」における無答は、36．8パーセントであった。
全国平均	80.3	94.2	78.9	76.1	60.4	76.0	45.6	60.9	
増減	-6.6	-5.6	-14.9	-4.4	1.0	-12.0	-10.1	-5.6	

4年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	調べたことをもとに文章を書く	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	79.4	84.3	71.6	75.0	80.4	75.5	42.6	57.4	5つの項目で全国平均を下回っていた。最も下回っていた「文章を書く」では、「指定された長さで書く」「自分の考えを明確にして書く」という観点での正答率が低かった。無答は、32．4%であった。
全国平均	81.5	89.6	75.5	74.8	80.1	69.1	45.5	64.5	
増減	-2.1	-5.3	-3.9	0.2	0.3	6.4	-2.9	-7.1	

5年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	スピーチをする	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	78.1	88.0	55.7	68.1	72.9	61.5	54.7	58.2	「漢字を読む」「文章を書く」で全国平均を下回った。「文章を書く」では、「指定された長さで文章を書く」という観点で正答率が低かった。無答は17．2%であった。
全国平均	76.1	91.4	51.6	62.6	64.0	58.2	52.6	61.7	
増減	2.0	-3.4	4.1	5.5	8.9	3.3	2.1	-3.5	

6年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	報告する文章を書く	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	76.3	92.6	84.4	61.8	63.7	73.3	46.7	45.0	4項目において全国平均を下回っていたが、特に「報告する文章を書く」の項目で大きく下回っていた。
全国平均	75.0	92.9	85.4	60.9	57.3	72.5	56.7	45.1	
増減	1.3	-0.3	-1.0	0.9	6.4	0.8	-10.0	-0.1	

(2)課題の原因として考えられること

全学年において、「漢字を書く」「文章を書く」の項目で全国平均を下回っていた。品川区では「ことのは」が漢字ドリルと同様に扱われ指導に使われているため、漢字学習への意欲を上げるために効果的な活用が必要となってくる。「書くこと」に関しては、本校では日記を継続して行っているため、自分の思ったことを書くことには慣れているが、複数の資料を比較検討して考えを述べることや字数制限を意識して書くことに慣れていないことも原因として考えられる。

(3)課題解決に向けた方策(取組指標)

取り組む場面	方策
基礎タイム	・新出漢字に関しては、熟語等の意味も含め、学年に応じて指導したり調べたりする時間を取る。 ・新出漢字等の熟語を読む活動を取り入れる。 ・漢字小テストを定期的に実施する。 ・週1回の日記に継続的に取り組む。 ・高学年では、新聞を読んで自分の考えや感想を書く時間を設ける。(NIEを授業に組み込む)
授業	・自分の考えノートに書く機会を授業中に意図的に設け、手書きで自分の考えをもち表現する機会を増やす。 ・グループやペアなど様々な学習形態を効果的に取り入れることで、自分の考えをもち発話する機会を増やす。また、相手の考えを理解したり自分の考えとくらべたりしながら聞くことができるようにする。 ・音読や話し合いの様子をタブレットで動画撮影や録音をし、客観的に振り返ることで、よかった読み方・話し方など改善したいところを見付け、今後の自分の話し方に生かしていけるようにしていく。 ・物語文・説明文は常に叙述に立ち返られるような発問、学習展開を意識する。 ・シンキングツールを効果的に用いて情報や思考を整理させることで、自分の考えをまとめやすくする。 ・「書く」単元のときには、複数の資料を効果的に取捨選択し、自分の考えをまとめることができるよう授業展開を工夫する。また、字数を意識して書くことができるように、マスのある用紙も適宜使用する。 ・学びを児童が実感できるよう、振り返りをなるべく書く時間を設ける。
家庭学習	・漢字ノート、復習プリントなどを用いて既習事項の定着をはかる。 ・高学年においては自主学習を通して、苦手なところや課題点を復習する取り組みを進めていく。

(4)次年度の数値目標

国語科	令和6年度目標正答率		
現2年	80	現5年	75
現3年	70	現6年	75
現4年	75		

2 社会科

(1)結果の概要と問題内容別正答率

教科全体で見ると、4年、6年は全国平均より下回っている。問題別で見ると、4年生の「安全な暮らし」「市の様子、くらしの移り変わり」、5年生では「くらしをささえる水」「自然災害からくらしを守る」、6年生では「日本の農業、工場生産」「情報をいかした産業」などにおいて課題があった。

4年	市の様子	工場の仕事	買い物調べ	店ではたらく人	安全なくらし(火事)	安全なくらし(事故や事件)	市の様子や移り変わり	くらしの移り変わり	考察と具体的課題
正答率	62.9	94.1	58.8	72.1	66.9	47.1	31.4	50.0	地図記号や用語の意味などの知識・技能面の定着が十分でない。また、資料の読み取りを必要とされる問題の正答率も低い。
全国平均	63.7	93.2	62.9	75.3	75.7	58.4	42.3	68.2	
増減	−0.8	0.9	−4.1	−3.2	−8.8	−11.3	−10.9	−18.2	

5年	都道府県の様子	くらしを支える水	ごみの処理と利用	自然災害からくらしを守る	先人の働き	特色ある地域の様子	考察と具体的課題
正答率	68.2	58.2	68.3	61.5	53.8	51.8	全体的によくできている。一方で資料の読み取りには課題がある。また、ダムや清掃工場などの仕組みの理解も十分でない。
全国平均	60.2	62.3	67.6	65.4	50.2	51.1	
増減	8.0	−4.1	0.7	−3.9	3.6	0.7	

6年	世界の中の国土	日本の国土と人々の暮らし	日本の農業	日本の水産業	日本の食料生産	自動車をつくる工業	日本の工業生産	情報を生かした産業	自然環境と国民生活	考察と具体的課題
正答率	75.6	51.9	57.8	75.6	45.0	60.7	68.9	55.6	67.4	日本の工業の特色、またそれを活かした貿易の問題の正答率が低く、知識が結びついていない。また、情報を生かした産業では、メディアについての知識が十分でない。
全国平均	74.3	50.9	63.9	69.9	44.2	60.4	77.0	65.9	62.3	
増減	1.3	1.0	−6.1	5.7	0.8	0.3	−8.1	−10.3	5.1	

(2)課題の原因として考えられること

4年生は基本的な知識や用語の定着が十分でないために、問題で問われていることが理解できていない面が見うけられる。また、資料に関しても、何を表しているか分からず答えられなかった問題もある。高学年は、知識を関連付けて考える力が十分でない傾向がある。

(3)課題解決に向けた方策(取組指標)

取り組む場面	方策
授業	4年生 ・基本的な用語や地図記号の確認ができるプリントで習熟を進める。 ・資料に関しても、何がどう表されている資料であるか、子どもと確認しながら授業を進める。 5年生 ・ダムや清掃工場が何をしている場所であるかは分かるが、どのような仕組みであるか十分でないため、単元のまとめで、振り返る習慣をつける。また、構造が分かるイラストを用いて、児童自身の言葉で補填させるなどして、まとめる活動を取り入れる。 6年生 ・知識を結び付けて考える習慣がつくように、授業の流れを工夫する。子どもの中で「○○の特色が～だから、△△のようにいかされている。」という思考が身に付くような問いかけを意識する。

(4)次年度の数値目標

社会科	令和6年度目標正答率
現4年	70
現5年	70
現6年	70

3 算数科

(1)結果の概要と問題内容別正答率

ここ数年実施している東京ベーシックドリルの繰り返しや、基礎タイムでの基本的な問題演習の積み重ねの結果、全国平均を上回る学年が多かった。説明や思考力を求められる応用問題に誤答が多いが、授業中、児童に解答理由を説明させることでさらなる向上が可能である。

2年	120までの数	たし算	ひき算	3つの数の計算	かたち	長さ・かさ	時計	えをつかったグラフ	考察と具体的課題
正答率	93.6	81.0	77.4	78.3	79.5	92.9	89.3	74.1	全国平均を上回る結果となった。特に、時計の単元は全国平均を10%以上上回っている。また、下回った領域は1つもなく、良好な結果と言える。さらなる向上を目指すためには「どちらが何個多いですか」や「○○さんの前に4人います」等、問題の意味を考えて解く問題を、繰り返し演習することで、定着を図っていく。
全国平均	88.9	73.4	72.2	70.9	69.9	83.4	77.5	71.2	
増減	4.7	7.6	5.2	7.4	9.6	9.5	11.8	2.9	

3年	1万までの数・分数	たし算・ひき算	かけ算	三角形と四角形	はこの形	長さ・かさ	時こくと時間	ひょうやグラフ	考察と具体的課題
正答率	83.7	70.4	79.5	85.5	63.2	62.1	69.7	71.1	全国平均を下回る結果となった。繰り上がりのあるたし算や引き算の計算間違いが多い。また、後半の3つの領域は誤答ではなく、無回答が非常に多かった。そのため、最後まで諦めずに問題を解くよう繰り返し指導をする。様々な領域で小テストを繰り返し、児童に達成感を味わわせることでテストに対し前向きな姿勢をつくっていく。
全国平均	78.2	77.8	82.5	87.6	62.9	75.5	79.3	85.2	
増減	5.5	−7.4	−3.0	−2.1	0.3	−13.4	−9.6	−14.1	

4年	大きい数・小数・分数	たし算・ひき算	かけ算	わり算	□を使った式	円と球・三角形	長さ・重さ	時こくと時間	表とぼうグラフ	考察と具体的課題
正答率	77.2	89.7	66.2	75.7	71.6	86.3	77.5	88.2	64.7	全国平均を上回る正答率となった。多くの単元で全国平均を上回っていた。四則演算の領域をコンスタントに正答している児童が多い。課題としては「2つの棒グラフの値はどちらが大きいかを説明する」問題の誤答が多い。普段の授業では自力解決や自分の考えをノートにかく時間を充実させ、児童が式や数字を答えるだけでなく、解法を論理的に説明する習慣付けをおこなう。
全国平均	72.1	78.5	59.1	68.8	72.5	76.3	80.7	81.7	70.0	
増減	5.1	11.2	7.1	6.9	−0.9	10.0	−3.2	6.5	−5.3	

5年	億と兆・がい数の表し方	わり算・計算のきまり	小数	分数	いろいろな形	面積	角の大きさ	変わり方調べ	簡単な場合についての割合	折れ線グラフと表	考察と具体的課題
正答率	64.8	65.1	75.8	78.6	65.1	54.7	78.1	52.6	76.6	58.6	概ね、全体的に全国平均を上回る結果となった。全国平均を下回った「角の大きさ」は、分度器のはかり方や角度の読み取りができないのではなく、式を見てどのように解いたかを考える問題の正答率が低かった。そのため、授業では友達の考えを聞き、それを改めて自分の言葉で説明する時間を充実させていく。また、学力が維持するよう定期的に基礎・基本の復習も実施する。
全国平均	65.8	59.3	76.2	73.1	65.4	52.8	84.6	47.5	69.4	52.1	
増減	−1.0	5.8	−0.4	5.5	−0.3	1.9	−6.5	5.1	7.2	6.5	

6年	整数のなかま分け	分数と小数	小数の計算	分数の計算	多角形と円・合同	面積	立体と体積	比例・単位量あたりの大きさ	割合	円グラフや帯グラフ・平均	考察と具体的課題
正答率	71.9	64.4	57.1	81.1	83.9	71.1	69.6	75.0	45.6	44.4	全国平均を上回る結果となった。特に、分数の計算、面積の領域はとても高い正答率だった。大きく下回った領域もなかったため、概念の把握が難しい「割合」や「平均」の問題に取り組み、計算して出た答えの意味等を説明させ、論理的な思考力を高めていく。また、学力が維持するよう定期的に基礎・基本の復習も実施する。
全国平均	65.4	65.2	52.4	68.0	85.7	53.4	68.9	73.7	36.6	41.8	
増減	6.5	−0.8	4.7	13.1	−1.8	17.7	0.7	1.3	9.0	2.6	

(2)課題の原因として考えられること

授業中、正答か誤答かにのみ興味をもつ児童が多く、自分の解法を説明したり、友達の話に積極的に耳を傾けようとする児童はまだまだ多くない。授業中は、お互い自分の考えを説明しあう時間を充実させ、なぜその答えになるかを深く考えさせる。また、計算の分野等の学力の維持、向上のため、成果をあげている東京ベーシックドリルや基礎タイムでの課題別の復習も継続しておこなっていく。

(3)課題解決に向けた方策(取組指標)

取り組む場面	方策
基礎タイム	・全学年を通して、特に苦手分野の東京ベーシックドリルを活用し、指導を繰り返す。 ・全学年を通して、思考力を問う問題(文章問題)に数多く取り組ませ、問題に慣れさせていく。 ・全学年を通して、ます計算・文章問題プリント等反復練習を行う。 ・4年生から6年生では、Scratchを活用し、かたちづくりを行う。 ・全学年を通して、eライブラリを活用し復習させる。
授業	・全学年を通してテストやドリルの直し等の時間を充実させ、「なぜ間違えたのか」や「どこを自分が苦手とするか」を考えさせ、次回に生かせるようにする。 ・自力解決した問題を、友達が見てわかるように説明させる習慣をつける。 ・友達の説明を聞き、聞いていた児童に再びその考えを説明させることで、他者の考えを自分の考えとして変換できるようにする。 ・出題形式等に慣れていない児童が多いため、学力定着度調査の過去(2年分)の問題に取り組ませる。 ・具体物を使って文章問題のイメージをつかませる。 ・文章問題に対して立式をするだけでなく、図を使った考えを取り上げ図の良さを実感させる。。
家庭学習	・計算ドリルの解き直し問題に取り組ませる。

(4)次年度の数値目標

算数科	令和6年度目標正答率		
現2年	80	現5年	80
現3年	70	現6年	80
現4年	80		

4 理科

(1)結果の概要と問題内容別正答率

教科全体で見ると、5年生は概ね良好な状況であり、4、6年生において課題があるといえる。問題別で見ると、4年生の「植物の育ち方」と「磁石の性質」、6年生の「花のつくりと実」と「ふりこのきまり」の単元において課題があった。

4年	自然の観察	植物の育ち方	昆虫の育ち方	昆虫の体	太陽と地面	光の性質	風やゴムの働き	音の性質	電気の通り道	磁石の性質	物の重さ	考察と具体的課題
正答率	70.6	30.4	83.8	47.1	60.0	66.7	42.2	51.5	39.7	10.3	48.0	自然観察が年間を通して不足しており、植物の育ち方や昆虫のからだのつくりについての基礎的な知識不十分であった。また、「磁石の性質」、「ものの重さ」、「音のせいしつ」では、実験方法や結果がらいえた知識や思考の定着に課題がある。授業内では、実体験ができる場を多く設ける。また、単元の最初には既習事項の定着がなされているか、関連している事項を理解しているか小テストを行い、学習の定着を図る。
全国平均	70.7	46.7	79.2	50.9	60.5	66.3	44.8	58.9	41.8	22.2	53.6	
増減	−0.1	−16.3	4.6	−3.8	−0.5	0.4	−2.6	−7.4	−2.1	−11.9	−5.6	

5年	植物の成長	動物のようす	天気と気温	電気のはたらき	体のつくりと運動	月と星	物の体積と力	物の体積と温度	雨水のゆくえと地面	水のすがた	自然の中の水	物のあたたまり方	考察と具体的課題
正答率	89.1	76.6	63.3	58.6	65.6	69.3	57.8	74.0	62.5	52.3	44.8	63.0	自然事象の観察が不十分であり、基礎知識が定着が不十分である。また、日常生活と関連付けて考え、活用する力が身に付いていないところが課題である。年間を通して、野外観察計画や自然の事物現象に触れる機会を多くもてるように授業計画を行う必要がある。さらに、地域の施設を活用してプラネタリウム等で学んだことを活用した問題演習を行うことで定着を行うことが重要である。
全国平均	93.4	75.2	48.6	45.7	57.7	72.0	50.0	70.7	59.8	48.5	50.3	62.9	
増減	−4.3	1.4	14.7	12.9	7.9	−2.7	7.8	3.3	2.7	3.8	−5.5	0.1	

6年	天気の変化	発芽と成長	魚の誕生	花のつくりと実	流れる水の働き	人の誕生	ふりこのきまり	物のとけ方	電流のはたらき	顕微鏡の使い方	考察と具体的課題
正答率	55.4	79.9	57.2	46.4	58.7	80.4	52.9	54.3	60.9	65.2	自然事象の観察が不十分であり、基礎知識が定着が不十分である。「ふりこのきまり」などの実験では実験器具の使い方が定着していないといえる。実験器具の名称や器具の使い方が定着できるように基礎タイムで既習内容を問題演習をしていく。また、観察実験器具に関してはスキルテストを行い、技能の定着を図る。
全国平均	56.6	73.3	54.6	50.8	60.1	82.2	56.1	55.0	57.5	60.9	
増減	−1.2	6.6	2.6	−4.4	−1.4	−1.8	−3.2	−0.7	3.4	4.3	

(2)課題の原因として考えられること

問題解決の流れを理解し、観察実験を行い学習の見通しから、解決の方法を発想・共有する。観察実験の結果を学級全体で共有し、予想や仮説と比較しながら考察を考え言語化するという学習の流れが不十分だった単元がある。また、一部単元については十分に知識が身に付けられていない。

(3)課題解決に向けた方策(取組指標)

取り組む場面	方策
授業	・事象提示を工夫し児童が学習課題を理解するとともに、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・正しい器具の使い方及び注意点について、その理由と共に繰り返し指導を行う。 ・実験や観察をする時にはタブレットPCで記録を残し、結果を繰り返し振り返ることができるようにすることで、知識の確実な定着を図る。 ・実験結果を学習課題と照らし合わせながら、整理・分析した上で考察し、学級全体で言語活動を通じて共有するようにする。 ・観察が長期に渡るものや、実験の結果が捉えにくいものについては、NHK for School等の映像教材を取り入れて、理解を深められるようにする。 ・各学年の発達段階に合わせた理科の問題解決の流れを教員が共通認識するとともに、児童に視覚的に提示し、どの単元においても同じ流れで指導を行うようにする。
家庭学習	・振り返りシートやeライブラリを活用することで基本的な知識の定着を図る。 ・今回明らかになった課題については、プリント形式で問題の解き直しを行い、確実な定着を目指す。

(4)次年度の数値目標

理科	令和6年度目標正答率
現4年	60
現5年	60
現6年	60

5 英語

(1)結果の概要と問題内容別正答率

JTEと担任との連携が成果を上げている。「アルファベットの読み」「英作文」が全国平均を下回っているので、課題があると言える。

6年	単語の意味理解	アルファベットの読み	アルファベットの書き(聞く)	日常会話の理解	会話全体の理解	アルファベットの書き	単語の読み	英文の完成	英作文	考察と具体的課題
正答率	86.3	70.0	91.9	87.4	80.7	88.9	95.6	75.1	68.9	全国平均より上回っているものは、JTEと担任との連携が成果を上げている。「アルファベットの読み」「英作文」が全国平均を下回っているので、対策が必要である。
全国平均	80.6	72.4	78.1	76.1	75.8	80.3	88.7	69.1	76.3	
増減	5.7	−2.4	13.8	11.3	4.9	8.6	6.9	6.0	−7.4	

(2)課題の原因として考えられること

音声や会話など、実用的な場面での活用方法の理解に対しては、授業の中で、会話を聞くことや活用場面を想定したロールプレイなどを取り入れたことで、聞く力が身についてきた。アルファベットなど、基礎・基本の定着が見られるが、アルファベットの文字を識別し、その読み方を身に着けていないのが課題である。日本語と英語では音が異なり、単語によって音が変化する。英語の音読に力を入れたり、フォニックスを効果的に活用したりして、英語をスムーズに読めるようにしていく。また、英作文に関しては基本的な単語を覚えて英作文を書くことを習慣化し、さらに書き慣れていけるようにする。

授業	・問題形式に慣れさせるために、英作文の問題形式の反復練習を行う。 ・英語の音読やフォニックスを効果的に活用し、練習を習慣化する。 ・フラッシュカードを使用し、英単語の意味理解度を高めていく。
家庭学習	・英単語練習プリントを活用し反復練習したり、音読や英作文の練習問題を繰り返し実施したりすることで、アルファベットの読みや英作文をできるようにする。

(4)次年度の数値目標

現6年	85